

精川赤穂城を巡る事

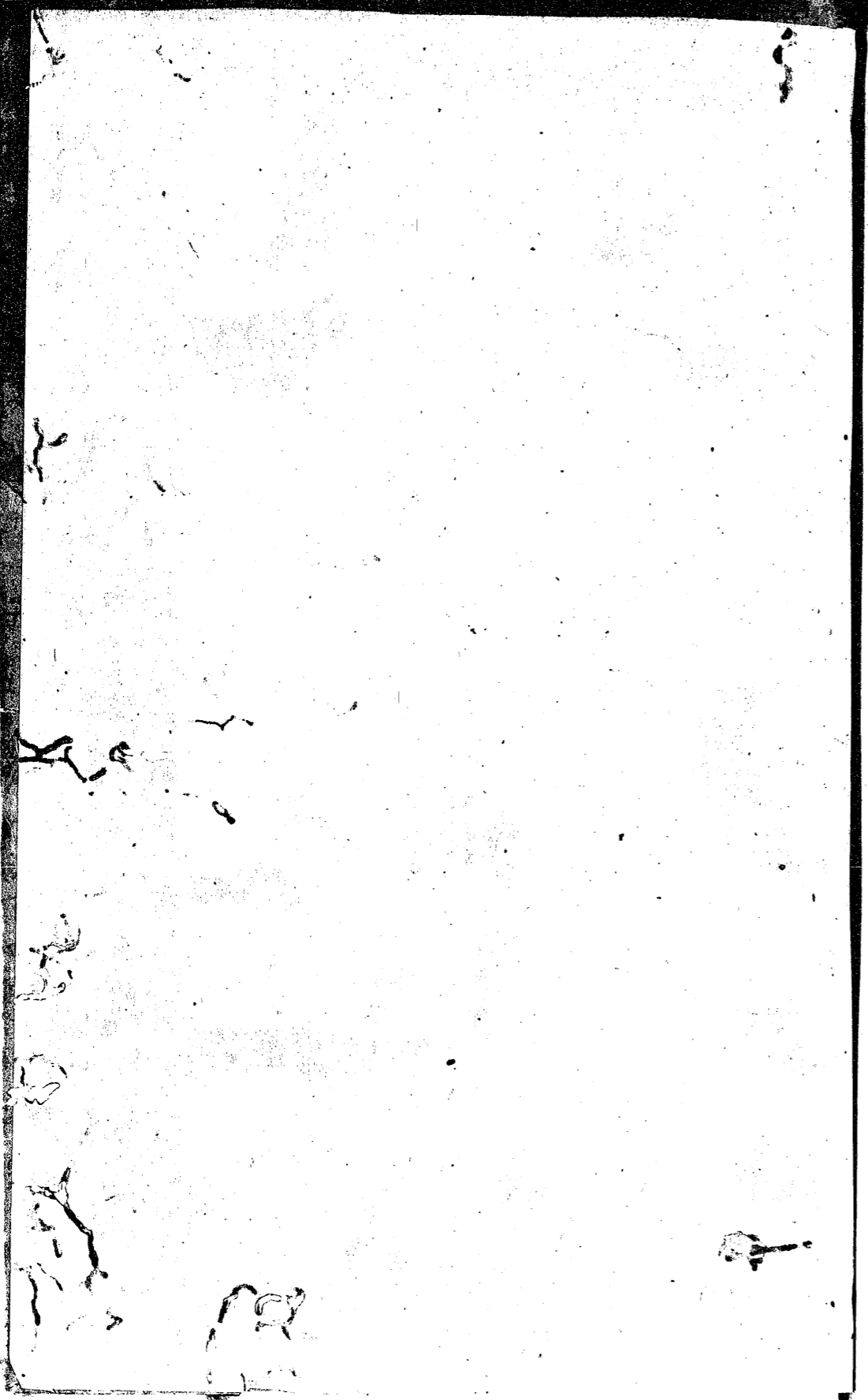
● 四ノ白栢が赤穂の事、古来より赤穂城と云ふは、此の地、赤穂平中治
此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
内田氏、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、
此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
中ノ内田氏、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
上ノ赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、

明^{あき}の事、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、
此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
一^いの事、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
及^あの事、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、
此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、此の地、赤穂平中治、
赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、
赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、赤穂城を巡る事、

在彼に在りては
 彼を待たずして
 其の行く所を
 追ひて見ゆ
 其の時、松平
 侯は、此の事
 を知りて、大
 層不平を為
 され、其の時
 松平侯は、伊
 予を以て、其
 の所業を以
 て、其の咎を
 問はれ、松平
 侯は、其の咎
 を謝す、其の
 時、松平侯は、

伊予を以て、其
 の所業を以て、
 其の咎を問は
 れ、松平侯は、
 其の咎を謝す、
 其の時、松平
 侯は、其の咎
 を謝す、其の
 時、松平侯は、

の事書後抄に事定る所ありしかば事定る所
中の中秋の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所
事定る所の事定る所ありしかば事定る所



一落穂集

至蒙
齋



和

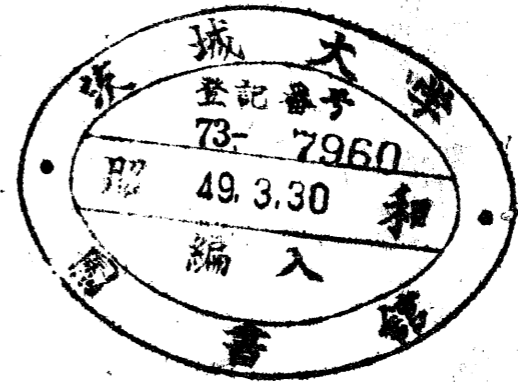
廣雅集卷之九

目錄

國法之法系新知識

法系之系系

國法之系系



海國集

國本立治法平新和洋願之事

一 國之目 國家之法例其外威法極難其所以立國之本

其所以立國之本及所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本

其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本

其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本

其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本

其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本

其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本其所以立國之本

